令和５年7月　月例記者会見(令和５年7月6日)市長原稿

皆さま方には、平素より市政運営にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
それでは、7月の月例記者会見の資料についてご説明いたします。

【市長】
資料№1「(仮称)道の駅ふじさんすその」基本構想策定について」です。
裾野市では、地方創生の重要な手法として道の駅の役割を捉え、今年度、道の駅整備のための基本構想を策定します。
創設当初、道の駅は、駐車場やトイレなどの休憩施設や道路情報といったドライバーへのサービス提供を目的としたものでしたが、近年では、道の駅ごとに地方の特色や個性を表現し、子育て支援施設や利用者が楽しめるサービスを提供する多様な施設が併設されるようになっており、「地方創生の拠点」として進化を続けています。
今回策定する基本構想は、本市の特徴を生かし、様々な課題に対応する道の駅を「計画」し「整備」・「運営」していくための指針を示すものとなります。
裾野市には、交通量の多い幹線道路がありますが、これらの道路の沿線には、休憩・情報・商業観光施設が少なく、道路利用者の多くは、裾野市を通過していく傾向にあります。
そこで、安全で快適に道路を利用できる道路交通環境を提供し、地域間の交流を活性化させるにぎわい創出を生み出すために、四季折々の美しい富士山を望む立地を生かした裾野市ならではの「道の駅」の整備を行っていきます。
詳細は、戦略推進課　根上主幹より、説明します。
【戦略推進課　根上主幹】
現在では、全国には 1,204 箇所の「道の駅」があり、うち静岡県内では 25 箇所の「道の駅」があります。
国の登録制度である道の駅は、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場としての活用が期待されています。
さて、裾野市には、南北に東名高速道路・新東名高速道路・一般国道 246 号裾野バイパス、東西に一般国道 469 号などの交通量の多い主要幹線道路がありますが、これらの道路沿線には休憩・情報・商業観光施設が少なく、道路利用者の多くは裾野市を通過していく傾向にあり、裾野市の近隣にある「道の駅」までは、それぞれ距離があります。
道の駅は、24 時間無料で利用できる駐車場やトイレなどの「休憩機能」、道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供する「情報発信機能」、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る「地域連携機能」の 3 つの機能が必要であると考えられています。
裾野市は、これら3つの機能に、災害時に利用可能な防災施設、災害時に周辺施設と連携する施設としての「防災機能」を合わせて、4つの機能を備えた道の駅の整備を検討しています。
そして、道の駅で休憩し、道路情報や観光情報を入手する道路利用者、地域の交流の場として道の駅を利用する市民のみなさま、周辺市町から道の駅を利用する人々を取り込んで、関係人口の増大を目指

し、また、災害時に利用できる施設としての役割を果たす道の駅の整備を検討していきます。
　今後のスケジュールですが、今年度に基本構想を策定し、来年度からは事業計画の作成に、令和 7 年度以降は設計等に着手していきたいと考えています。
　また、道の駅の整備に伴い、市民のみなさまからのご意見も取り込むこととし、今年度の基本構想策定段階ではパブリックコメントの実施、来年度以降の事業計画作成段階では、ワークショップの開催を予定しています。
　以上で、「(仮称)道の駅ふじさんすその」基本構想策定について」の説明を終わります。

【市長】
　資料№2「すそのんほっと相談」についてです。
　6月1日より、全小中学生に配付している ICT 端末「クロームブック」で悩み相談を受け付けるシステム「すそのん ほっと 相談」を導入しました。
　デジタル化の活用により、児童生徒にとって相談窓口の選択肢を増やし、いつでもどこでも周囲を気にすることなく、悩みごとを打ち明けられる環境を整えました。
　詳細は、学校教育課　加藤係長より説明します。

【学校教育課　加藤係長】
　6月1日より、全小中学生に配付している ICT 端末「クロームブック」で悩み相談を受け付けるシステム「すそのん ほっと 相談」を導入しました。
　対象者は市内全小・中学生です。
　一人一台端末「クロームブック」画面の相談窓口アイコンからログインをします。
　児童生徒は、学校名・学年・氏名、相談したい人を「市の相談員」または「学校の先生」のどちらかを選択し、相談内容について入力します。その他、具体的に相談したい人がいる場合は、保健室の先生やスクールカウンセラーなど、その人の氏名を入力します。
　「相談内容」は市学校教育課と教育支援センター内「相談室」で受け取り、学校と相談日時の調整を行います。「市の相談員」の場合は、学校へ直接訪問し、当該児童生徒と面談を行います。「学校の先生」の場合は、指定された教員が対応します。
　6月中の 1 カ月の間に、94件の相談が寄せられました。内訳としては、小学生80件、中学生14件でした。友人関係の悩みや家庭のこと、ストレス解消法などの悩みが寄せられました。
　児童生徒の思いを聞き取り、一緒に解決策を考えていきます。

【市長】
　次に、資料3「第 2 回富士裾野トラックミート」についてです。
　7月15日(土)に裾野市運動公園陸上競技場において、陸上公認記録会「富士裾野トラックミート」を開催します。
詳細については、産業観光スポーツ課　石塚主事より説明します。

【産業観光スポーツ課　石塚主事】
　7 月 15 日の土曜日に陸上公認記録会「第 2 回富士裾野トラックミート」を開催します。
　この大会は小学生を対象とした記録会と「大学駅伝関東強豪校」を招待する記録会の 2 部構成となっています。小学生の記録会には、市内及び県東部地域の小学生が参加予定です。
　大学生の部には、慶応・國學院・駒澤・創価大学など 13 の大学駅伝関東強豪校が参加予定です。
　これまで当市では、陸上のスポーツ合宿を中心にスポーツツーリズム事業を推進してきました。本大会を開催することにより、地域の子どもたちが学生トップアスリートと触れ合う機会を創出すること、また、本大会に参加する大学に裾野市により一層の関心を抱いていただき、さらなる準高地トレーニング合宿誘致につなげていくことを目的に開催いたします。
　準高地トレーニングができるまち「裾野」に、多くの「大学駅伝関東強豪校」のトップアスリートが訪れる一日になります。当日の取材を是非お願い申し上げます。

【市長】
　次に、資料4「市営墓地第4号墓域の使用者を募集」についてです。
　市営墓地は、美しく雄大な富士山を眺望できる場所にあります。
　既に使用されている第1号墓域から第3号墓域に続き、今年度、新たに第4号墓域 210 区画の使用者を募集します。第4号墓域の整備は既に着手しており、令和5年11月の完成を予定しています。
　詳細は、生活環境課　井伊主席主査から説明します。

【生活環境課　井伊主席主査】
　市営墓地第4号墓域の使用者募集の概要について説明します。
　市営墓地4番目の墓域として 210 区画を整備し、使用者を募集します。
1区画の広さは全て3㎡です。
　申込みできる人は、次の3つの条件の内、どれか1つに該当する人です。
　1つ目は、裾野市に住民登録のある人、
　2つ目は、近隣市町、沼津市、三島市、御殿場市、長泉町、清水町、小山町の3市3町に住民登録のある人、
　3つ目は、裾野市及び近隣市町以外に住民登録のある人で、市内の事業所に勤務している人です。
　なお、既に市内にお墓をお持ちの人や、既に市内の事業を退職している人は、生活環境課へご相談ください。
　墓地の使用にかかる費用は、令和5年度、墓地の引渡しを受ける初年度は「永代使用料」と「管理料」が、翌年度以降は毎年「管理料」のみがかかります。「永代使用料」は裾野市に住民登録のある人は 43 万円、裾野市以外に住民登録のある人は 57 万円となっております。
　お申込は8月 21 日から 10 月 20 日までの2か月間、先着順で受付けます。生活環境課、又は各支所に用意してあります「墓所使用申込書」へ記入し、「住民票」を添付し、生活環境課へ持参、又は郵送により提出してください。なお、市公式ウェブサイトから申し込むこともできます。
　11 月6日に公開で区画の抽選会を実施し、区画の割り振りを決定します。その後、必要書類の提出、「永代使用料」と「管理料」の納付を確認できましたら、12 月1日以降、「墓所使用許可証」を交付すること

で、区画の引渡しとなります。

【市長】
　次に、資料5「市道 1-5 号線(千福地先)車両通行止め規制について」です。
　6 月 1 日～6 月 3 日の台風 2 号豪雨により、市道 1-5 号線の佐野川護岸が崩れ、現在車両通行止めとなっています。
　護岸に大型土のうを設置する等の応急復旧工事を実施しましたが、あくまで護岸の被害拡大を防ぐためのものであり、車両を通せるほどの安全性を確保できないため、応急復旧工事完了後も、当面の間車両通行止めは継続します。
　本復旧工事の着手時期は年内を見込んでいますが、完了時期については現在復旧工法の検討段階であり、明確な時期を示すことができません。詳細な工程が決まり次第、工事看板や市公式ウェブサイト、広報無線などで改めてお知らせします。
　当該道路を使って通勤・通学等をされている皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

【市長】
　次に、資料6から資料8を合わせて説明します。
　資料№6「日本一市民目線の市役所実現のための　裾野市 DX 方針」についてです。
　私は市長就任以来、行政サービスにおける ICT の活用、そして行政の DX を掲げ、取組を進めてきました。
　これまでに、産婦人科・小児科オンライン医療相談の受付開始、市民課窓口予約システムの導入、交通安全 EBPM 支援システムの活用、市役所や学校の情報システムのアップデートなどを行ってきました。
　先日、岸田総理は記者会見で、「デジタル行財政改革を政府の優先課題に」と述べられました。
　ここで、当市における DX をさらに体系的に、力強く推進していくため、裾野市 DX 方針を取りまとめましたので、ご案内します。
　この方針は、市長戦略の実現に向けて、市が重点的に実施すべき DX 施策を取りまとめたものです。
　コンセプトは、「デジタルで日々の体験に変革を」です。
　日本一デジタルを活用した業務改革で、日本一市民目線の市役所を実現します。
　基本的方向は、DX で「市民満足度の向上」と「職員の業務効率化」を達成しようというものです。
　「あなたの時間をあなたのために」としていますが、市民の皆様が行政への手続等で費やさなければならない時間は極力短縮していきます。このことが、市民満足度の向上につながるものと考えます。
　また、「職員の時間は市民のために」として、デジタル技術を使って業務を効率化し、職員を雑多な事務仕事から解放し、より市民の皆様のための仕事に労力を振り分けていく、職員の業務効率化を達成したいと考えます。

次に、資料№7です。

最高情報統括責任者補佐官（CIO 補佐官）に千葉大右（だいすけ）氏を任命しました。

千葉氏は現在、デジタル庁　地方業務標準化アドバイザーとしてご活躍ですが、船橋市職員時代には、国の委員会等の構成員も務めるなど、知識・経験ともに申し分のない人材です。

当市の DX の推進にあたり、専門的な知識経験及び識見に基づき、助言・提言していただきます。

次に、資料№8です。

当市とトランスコスモス株式会社様は、本日付けで、DX 推進に関する包括連携協定を締結いたしました。

当市は市民満足度の定期的な取得と、その結果を踏まえ、継続的な業務改善のサイクルを確立したいと考えています。こうした取り組みは民間分野の方が先行していることもあり、企業の DX を手掛け、企業のコンタクトセンター等で顧客の声を収集しサービス改善につなげているトランスコスモス様の知見を当市においても生かしていただきたく、連携協定を締結いたしました。

具体的な内容については、河合デジタル部長から説明します。

【河合デジタル部長】

はじめに、資料№6「日本一市民目線の市役所実現のための　裾野市 DX 方針」についてです。

このDX方針は市長戦略の実現に向けて、市が重点的に実施すべきDX施策について、総務省の示す自治体DX推進計画の期間である、令和5年度から令和7年度までに取り組むべきものをまとめたものになります。

市長が述べた「デジタルで日々の体験に変革を」というコンセプトの「体験」とは、市民の皆様はもちろん、私たち職員の業務での体験も変革しようという意味になります。

まず、「待たない、書かない、行かない」とは、市役所での手続きは時間がかかるという市民の体験を変え、いろいろな手続に時間をとらせない行政サービスを構築していきたいという意味になります。

具体的には、試験運用している窓口予約システムの本運用の開始、おくやみワンストップサービスや書かない窓口の早期実現、手続のオンライン化やオンライン申請に伴う決済システムの早期導入などを進めていきたいと考えております。

次に「みんながわかりやすい」とは、行政サービスは説明を聞いてもわかりにくいという体験を変え、行政サービスを使いやすくし、民間サービスの水準にまで引き上げたいという意味になります。

現在、産婦人科・小児科オンライン医療相談受付事業を行っておりますが、スマホを使うことで、必要な時に最適な方法で相談することができるようになりました。利用者からは「丁寧に対応してもらった」「医師から直接回答をもらえてよかった」などの意見を多くお寄せいただいております。このように、使いやすく、さらに分かりやすいサービスを拡大していきたいと思います。

最後に、効率的な行政運営とありますが、デジタル化することで業務の効率を改善し、職員が市民に対して取り組む時間を更に生み出していきたいという意味になります。

ここに記載しているほかにも、庁内各課に伴走、支援しながら、様々な業務改革を進めてまいりたいと考えております。

基本的な方向は、DX で「市民満足度の向上」と「職員の業務効率化」を達成しようというものです。「あなたの時間をあなたのために」としていますが、市民の皆様が行政への手続等で費やさなければならない時間は極力短縮していきます。このことが、市民満足度の向上につながるものと考えます。

また、「職員の時間は市民のために」として、デジタル技術を使って業務を効率化し、職員を雑多な事務仕事から解放し、より市民の皆様のための仕事に労力を振り分けていく、職員の業務効率化を達成したいと考えます。

当市では、この二つを行政サービスの両輪と捉え、日本一市民目線の市役所を目指します。

具体的な取組の主なものをご紹介しますが、市民目線でのサービス改善においては、窓口 DX の取組として、おくやみ窓口を今年度下半期には導入していくべく、現在検討中です。また、書かない窓口についても、来年度の導入に向けて検討中です。

次に、デジタル・ディバイド対策として、デジタルツール、特にスマホの活用教室について、市民の皆さん向けのものを展開していきます。

次に、資料№7 「最高情報統括責任者補佐官（CIO 補佐官）に千葉大右氏が就任」についてです。

市長の掲げるDXを推進するため、CIO（副市長）を補佐し、専門的な知識経験及び識見に基づき助言・提言をいただくCIO補佐官として、千葉 大右氏が就任されたので、ご報告いたします。

千葉氏は、船橋市役所職員として、マイナンバー制度導入をはじめ、総務省業務改革モデルプロジェクト事業（いわゆる書かない窓口）などに携われました。また、総務省の「地方自治体のデジタルトランスフォーメーション推進に係る検討会」の委員を務めるなど、地域情報化に関するプロジェクトに深く関与されてきました。

現在は、デジタル庁職員として総務省「地域情報化アドバイザー」や、デジタル庁「窓口 BPR アドバイザー」として、行政のデジタル化に取り組まれていることに加え、自治体職員らが中心となって立ち上げた特定非営利活動法人の代表理事として官民の垣根を越えた活動を展開されております。

千葉氏は、デジタルツールを活用した自治体DXの推進をはじめ、地方自治体に大きく影響する「地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化」につきましても、見識高く、最適なアドバイスがいただけるものと確信しております。

次に、資料№8「裾野市 トランスコスモス㈱ 自治体 DX 推進に関する包括連携協定」についてです。

本協定は、日本一市民目線の市役所を実現し、裾野市DXを更に推進させることを目的に連携を図るものです。

連携先の「トランス・コスモス株式会社」様は、1966年創業のデジタル総合商社として自治体DXに実績のあることはもちろん、民間領域においても幅広く事業展開する企業です。

現在、裾野市では、市民満足度の向上を目指し、継続的に行政サービスの改善を図る組織風土の構築を目指しておりますが、トランス・コスモス㈱様は大手企業のコンタクトセンターを多数受託し、VOC（Voice Of Customer 顧客の声や要望、意見、ニーズ）の収集・分析にたけ、顧客への改善提案の知見も豊富であることから、当市においても、デジタルを活用した情報収集や分析など、市民満足度を向上させ、行政サービスを改善する提案等をいただけるものと大いに期待しております。